

## 早稲田大学 教育学部 物理 講評

<b>出題形式</b>	記述式
<b>試験時間</b>	60分
<b>特徴・その他</b>	昨年よりや難化。大問が3つから2つに減った。主題に工夫が見られ、やや嫌がらせのような問もある。また思い込みで解くと[Ⅰ]の力学の問題はあしをすぐわれる。その上で指定された物理量で答える必要がある。小問ごとに頭を切り替える必要がある。タフな構成である。

### [大問別講評]

番号	出題内容・コメント	難易度
[Ⅰ]	一見よくある問題に見えるが、小物体Bが台車の壁から離れないという設定が理解できただろうか。	やや難
[Ⅱ]	真空の誘電率とクーロンの比例定数の関係が頭に入っていないと最初の問題でつまずくことになる。また最後の立体回路は解いていくうちに意味と要領がわかつてくるが、その時には時間切れかもしれない。合格のためには、解ける問題を解くということに尽きる。	やや難